

30. GAIL

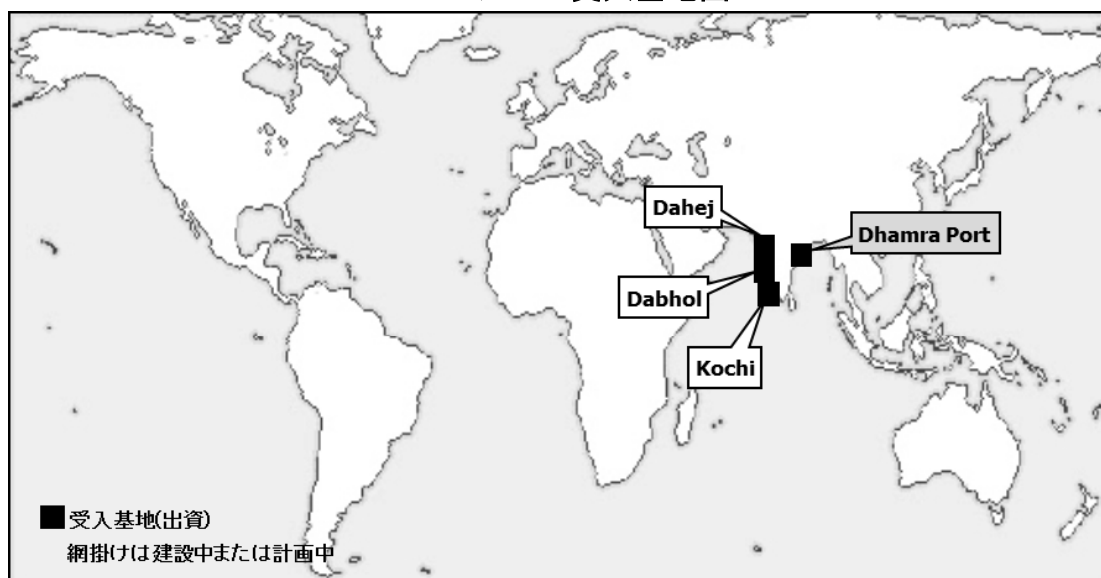
(1) 企業概要

GAIL (India) Limited は、1984年8月、石油・天然ガス省管轄下の中央政府所有の国有企業として、天然ガス輸送・マーケティング企業として設立された。インド国有企業（中央政府所有、CPSE）にして国内最大の天然ガス処理、輸送、販売企業であり、天然ガスサプライチェーン全体、石油、LPG 輸送、石化、発電の各事業をその傘下に抱えている。

2020年6月末時点で、インド政府が同社株式の52.10%を保有しているほか、同じくインド政府が株式を保有する Indian Oil Corporation (IndianOil) や Oil and Natural Gas Corporation (ONGC) との間で、株式を相互保有している。また、ONGC、IndianOil、BPCL (Bharat Petroleum Corporation Ltd.) などと共同で、LNG の受入事業者である Petronet LNG Ltd (PLL) の株式を保有している。

同社はインド初の幹線パイプラインとなる Hazira - Vijaypur - Jagdishpur (HVJ) パイプラインの建設・運転・メンテナンスを担当し、当時として世界最大級の国内縦断天然ガスパイプラインとなった。この1,750 kmパイプラインは、1987-1991年にかけて稼働を開始し、インドの天然ガス市場発達への契機となった。2019年度末時点では、約12,426 kmのパイプラインを操業中であり、さらに7,500 km分が建設中・計画中となっている。GAIL は主にこれらのパイプラインを利用したガス輸送事業を行っており、その国内シェアは7割を超える。2019年度の輸送量は日量1.08億 m^3 （前年比0.9%増）であった。2018年8月にはパイプライン輸送容量を予約できるオンラインポータルサービスを開始しており、第三者がアクセスし易い市場環境を整備した。

GAIL の LNG 受入基地図



IV. 主要企業別 LNG 事業動向

GAIL が 2019 年度に販売した天然ガスは日量約 9,600 万 m³ (前年比 0.1%減)となっている。このうち国内では日量約 8,400 万 m³ を販売しており、これは国内市場の 55%を占める。これらの天然ガスは主に肥料部門(38%)、発電部門(23%)、都市ガス配給部門(19%)へ供給された。都市ガス配給部門については順調に拡大を続けており、2019 年度の供給世帯数は 410 万戸(前年比 32.2%増)、運営する CNG ステーションは 1,385 箇所となった。2019 年には南西部の Cuttack と Bhubaneswar において、インド初の LNG サテライト基地による都市ガス配給を開始している。

(2) LNG 関連

GAIL は、2004 年に LNG 輸入を開始した Petronet LNG に対し 12.5%の出資比率で参加している。Petronet LNG のグジャラート州 Dahej、ケララ州 Kochi の LNG 受入基地において、LNG 気化ガス供給を受ける、もしくは LNG カーゴを直接調達しその気化設備を利用して、Dahej 基地は 2019 年 6 月に第 3 段階の拡張工事を完了しており、GAIL は Dahej 基地において、年間 250 万トン分の再ガス化能力を追加で確保している。GAIL は Kochi 基地との合計で年間約 500 万トン分の能力を持っている。また、2018 年 7 月には Dhamra LNG 基地の気化容量年間 150 万トン分を、操業開始予定である 2021 年からの 20 年間予約した。

2020 年 3 月には Dabhol 基地を所有する Konkan LNG を子会社化し、Dabhol 基地の管理運営体制を強化した。当基地は防波堤に問題を抱えており、年間稼働率が限られているが、既に改善工事に着工しており、2022 年中頃には試運転を開始、その後全面稼働する予定となっている。

GAIL は米国 Sabine Pass LNG、ロシア Gazprom との間で LNG 売買契約を締結、さらに、米国 Cove Point LNG との間で液化工契約を締結している。これらの長期契約開始に伴い、GAIL は年間 1,400 万トンを超える LNG ポートフォリオを確保した。GAIL は 2019 年度、インドで合計 74 カーゴ、約 480 万トンを受け入れている。

GAIL は国際市場で積極的に LNG 取引を行っている。スワップ取引や FOB の第三者への転売を含む様々な取引によってリスクの低減を図り、市場で競争力のある価格の LNG を獲得する狙いがある。幅広い LNG 輸送に対応するため、GAIL は商船三井と 2021 年から 3~5 年間の LNG チャーター契約を締結し、船団を充実させている。

GAIL の LNG 契約

輸出国	プロジェクト	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)	受渡条件
アメリカ	Sabine Pass LNG (Train 4)	2017-2037年 (20年)	350	FOB
	Cove Point LNG	2018-2037年 (20年)	230	FOB (液化加工契約)
Gazprom Marketing & Tradingによる 複数の供給源(ポートフォリオ契約)		2018-2038年 (20年)	(50→)250	DES

GAIL が関連する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万トン/年)	受入開始
インド	Dahej	Petronet LNG(GAIL、ONGC(Oil & Natural Gas Corporation Ltd.)、IOC(Indian Oil Corporation Ltd.)、BPCL(Bharat Petroleum Corporation Ltd.)各12.5 %、Public 50%)	1,000	2004年
	<Phase2 Expansion>		500	2016年
	<Phase3 Expansion>		250	2019年
	Dabhol	Konkan LNG Private Ltd (GAIL)	500	2013年
	<Phase2 Expansion>		500	計画中
	Kochi	Petronet LNG(GAIL、ONGC(Oil & Natural Gas Corporation Ltd.)、IOC(Indian Oil Corporation Ltd.)、BPCL(Bharat Petroleum Corporation Ltd.)各12.5 %、Public 50%)	500	2013年
	Dhamra Port	Adani 50%, Total 50%	500	2021年 (建設中)

(3) 今後の戦略

GAIL は Strategy 2030 を新たに策定した。重要な国内パイプラインの敷設、工業・輸送部門でのガス市場の拡大、LNG ポートフォリオの活用に加え、再生可能エネルギー分野への投資、事業効率化や持続可能性に資するモニタリングや、データ収集等のデジタル技術投資を進めていく。

2019年度のGAILの天然ガス供給源は、国産ガス(主にONGCより供給)が58%(前年55%)、LNGが42%(前年45%)を占めている。2018年から長期契約によるLNG輸入が開始されており、今後はLNGが占める比率が高まることが予想される。2019年度のインド全体消費量では輸入LNGが国産ガスを上回っている。

将来の国内電力需要増加への対応として、米国、ロシアからの長期契約を確保してきた。一方で、再生可能エネルギーによる安価な電力が市場に入ってきた背景もあり、想定していたほど電力事業者からの需要の伸びがなく、肥料メーカーや製鉄所等の顧客への販売に力を入れている。また、シンガポールにある子会社であるGGSP等を通じて、国際市場でのLNG販売の機会を模索し、並行して米国産LNGの仕向地スワップ取引を活用し輸送コスト等を低下させる等、更なるポートフォリオの最適化を図っている。

トルクメニスタン産ガスを輸入するTAPI(Trukmenistan-Afghanistan-Pakistan-India)パイプラインが計画されており、Trukmengasとの協議を重ねているものの、情勢の不安定なアフガニスタンがネックとなり見通しは不透明である。

GAILは新たな成長・ビジネス機会を模索するため、再生可能エネルギーや電気自動車、デジタル技術といった新技術の促進に焦点を当てたスタートアップ企業への投資(スタートアップ・イニシアチブ)を進めており、これまでに24社、3.5億ルピーの投資が行われている。